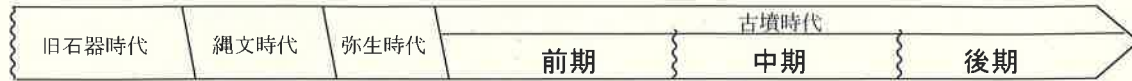


1. 古墳時代とは [図表P.42②]

[時期] 3世紀後半～7世紀



[前期] ～ 4世紀 / [中期] 5世紀 / [後期] 6世紀～7世紀

☆弥生時代とは異なる大規模で独特な形状の古墳(1 前方後円墳)が出現 [図表P.42①]

→特に大和地方(奈良盆地)に集中することから2 ヤマト 政権と称される政治連合の形成

2. 前期古墳の特徴

① 4 竪穴式石室 や粘土槨 [図表P.42] に木棺や石棺を埋納

② 表面には単純な筒の形をした5 円筒埴輪 が並べられる。 [図表P.44①④]

③ 副葬品としては銅鏡・玉など 呪術的なもの が多い。(鉄製農具もある)

《テーマ》「三角縁神獣鏡」 [図表P.44②⑤]

神像や霊獣が表現され、縁が三角形の山型にかたどられた鏡。前期古墳から最も多く出土するが弥生時代後期の遺跡からの出土例もある。 [図表P.41③]

Q1. 三角縁神獣鏡が特に注目される理由とは?

(1) 『魏志』倭人伝に次のような一節がある。

其の年(景初三年)十二月、「…今汝を以て親魏倭王となし、金印紫綬を仮し、装封して帯方の太守に付し仮授せしむ。…又、特に汝に…白絹五十匹…銅鏡百枚…を賜い、(中略) 悉く以て汝が国中の人に示し、国家汝を哀れむと知らしむ可し。…」

(景初三年(239年)「…今、あなたを『親魏倭王』となし、金印紫綬をさずけ、封をして帯方郡の長官にことづける。…また、とくに汝に…白絹五十匹…銅鏡百枚…を与え、それらの下賜品のすべてを汝の国民に示して、わが国が汝をいつくしんでいることを知らしめよ…」)

(2) 三角縁神獣鏡は国内で500枚以上見つかった。

(3) そのなかには「景初三年」(卑弥呼が銅鏡百枚を与えられた年)と刻まれたものがある。

A1. 卑弥呼 が魏の皇帝から下賜された「銅鏡百枚」との関連が考えられるから。

◇ 「ヤマト政権(王権)」を「大和政権」と漢字表記する例もあり、この点については様々な主張が存在しているようです。カタカナ表記のヤマト政権の語はそうした考え方をある程度広く含む意味合いを持たせるために用いられるようです。

◇ 図表P.42や図表P.44には円筒埴輪の使用イメージが載せられています。このように古墳の縁に沿って並べられている姿は、「霊」だとか「怨」だとか「幽」だとかいう漢字が飛び交うようなアニメをみる人にとってはおなじみであろう「境界」、すなわち「聖と俗を隔てる境界」を表現しているかのようです。

◇ 図表P.44②を参照すると④は古墳時代前期、⑤が古墳時代中期以降の副葬品となっています。古墳時代前期といえ、邪馬台国の若き(幼き?)女王・吾与の時代から連続しています。いまだ弥生時代の呪術的指導力が効果的であった社会が想像されます。後期にはあきらかに軍事的な副葬品が増えますが、その姿はまた次のプリントで、中国史書で古墳時代の日本を見たときにより一層はっきりとした形で描かれています。

◇ 竪穴式よりも高度な土木技術を必要とするであろう 横穴式石室 が古墳時代中期から出現します(一般化するのは古墳時代後期)。この横穴式石室の特徴として、入口を塞いでいるとびらの石をどかせば中に入ることができるということです。つまり夫の棺の横に、妻の棺を運び込むことが可能になります。実際そのような例も多くあります。このようにあとから遺体を運び込むことができる特徴を「追葬可能」な墳墓と表現します。

またこの特徴には欠点もあり、盗掘が容易になります。副葬品に貴重なものが多いせいもあり、盗掘された墳墓もまた数多くあります。